

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	設計方法小委員会		主 査 名：日色真帆 就任年月：2010 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)		委員長名：菊地成朋 主 査 名：西出和彦
設 置 期 間	2010 年 4 月 ～ 2014 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築・都市・環境の設計方法に関わる理論や実践を広く調査収集し体系化することで広く会員に敷衍させ、設計・デザインの質的向上に貢献する。他学会と連携しデザイン研究分野の発展に寄与する。「関係性のデザイン」に着目する。</p> <p>1) デザイン研究関連他学会との連携 Design シンポジウム 2012 (幹事学会：建築学会) 開催に向けて企画とその運営。</p> <p>2) 「関係性のデザイン」に関する事例収集・調査研究活動 (継続) WG を中心とした設計プロセス研究、設計支援システムに関する調査研究活動。(事例分析とモデル化)</p> <p>3) 「関係性のデザイン」に関する公開研究会の開催 (継続) 収集分析した事例にもとづく小規模な研究会・訪問調査を複数回開催。</p> <p>4) 設計方法研究の新しい展開を探る。</p> <p>5) これまでの成果の普及展開 書籍刊行に向けての検討</p> <p>6) 小委員会 HP による情報発信</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>日色真帆 (愛知淑徳大)、山田哲弥 (清水建設)、本江正茂 (東北大)、遠藤政樹 (千葉工大)、大西康伸 (熊本大)、近藤伸亮 (産総研)、武田有左 (山下設計)、仲隆介 (京都工繊大)、長坂一郎 (神戸大)、増村昭二 (日本設計)、門内輝行 (京都大)、柳沢和彦 (武庫川女子大)、脇坂圭一 (名古屋大)、和田浩一 (職能大)、渡邊朗子 (東京電機大)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>設計プロセス研究WG：先進的な事例・最新の研究情報を収集・分析・整理し、広く会員に情報発信する。</p> <p>設計支援システムWG：デザイン活動を支援する様々なシステムについて最新事例を調査・収集し、今後のあり方を探る。</p>		
2012 年度予算	185,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス：<a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s7/index.htm">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s7/index.htm</a></p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	Design シンポジウム 2012 (2012 年 10 月 16, 17 日、日本建築学会 (幹事学会)、日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本デザイン学会、人工知能学会の共同開催、設計方法小委員会を中心として運営)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1) Design シンポジウム 2012 (2012 年 10 月 16, 17 日、京都大学で開催。日本建築学会が幹事学会。当小委員会が対応して運営した。</p> <p>2) 各委員が事例を報告</p> <p>3) 公開研究会開催は未達成。</p> <p>4) 5). 関係性のデザイン及び設計方法一般に関する教科書について議論</p> <p>6) Design シンポジウム 2012 の HP (<a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s22/">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s22/</a>) 作成</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 設計方法についての教科書の必要性</p> <p>2. 遠方委員の旅費確保</p> <p>3. 関係性のデザインに関する調査研究事例の確保</p>